

平成24年度

府中市地域包括支援センター
業務チェック結果報告

地域包括支援センター泉苑

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	武蔵台、北山町、西原町、東芝町、日鋼町、美好町（1・2丁目）		
人口	25,282人	高齢者人口	5,509人
自治会数	58団体	老人クラブ数	9団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数（延べ件数）	4	2	1	2	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<p>武蔵台は、住民が、32の小さな単位の自治会等に分かれている。その多くは輪番で会長を決めており、包括からのアプローチにも関心を持ちにくい地域にある。武蔵台にはハケが存在し、高台になる2、3丁目は西国分寺駅周辺に買物や通院を選択することが多く中央線を利用しての移動など府中にありながら国分寺などを見据えた行動をとる住民が多いのが特徴といえる。また、武蔵台の南に位置する1丁目は西原の商業施設や病院、国立までが行動範囲に入り、近くの武蔵台文化センターや多摩総合医療センターなどの施設や病院など、自転車や徒歩で利用し生活が可能な地域にある。包括支援センターもこの地域にある。</p> <p>北山町は、戸建て住宅、都営住宅の地域で、分譲住宅や賃貸アパートは少ない地域になる。他地域から人が入り込むことが少ない地域で、住民が比較的大きな自治会を組織し、自治会長も継続的にその職にあたるため、住民の様子をかなり把握している地域と判断している。府中で一番高齢化が進んでいて29.5%の高齢化率はあるが地域で支えていこうという考えがある。民生委員の協力も高いので、地域を巻き込んだ協体制度を考えていける土壌はあるが、その担い手は高齢者であるので意識的な関与が必要な地域にある。介護保険に関する事業所が全くなく、わずかなコンビニや数軒の飲食店への依存が高く、買物には西原町のスーパー等を利用するしかない地域といえる。</p> <p>西原町は1丁目と本宿町に大規模な商業ゾーンがあり大半の生活物資は手に入る。2丁目～4丁目は戸建て住宅が並び1マンションを除いた全てが1自治会に加入している。住民が活動する場所として自治会館が存在し、住民の利用率は極めて高い。自治会として組織力は高く見守り活動等積極的に行っている。自治会館の使用に関して自治会の意向もあり地域住民への広報活動や介護予防活動などは限定的な展開になっている。</p> <p>東芝町はエフユニバースの分譲マンションと東芝関係の寮により構成されている。マンションには自治組織があり、老人会も今年度より活動を始めている。高齢化率は極めて低い。</p> <p>日鋼町は32棟の日鋼団地のみで構成され、管理組合組織にて3つの集会室を使用できる環境をそなえている。老人会もあり活発に活動を行っており、包括と毎月関わる機会を設けている。築40年近い建物なので建て替えについての住民の動きもある。管理組合主催の行事も活発にあり、また緊急時に備えて管理組合では緊急時の連絡先を掴んでいる。町内には商業ゾーンがなく、隣接地域のスーパー等まで、団地北側の地域からは徒歩20分以上かかるので、高齢者世帯では困難が生じている。</p> <p>美好町は2つの自治会と複数の都営住宅の自治会で構成される。賃貸アパートや分譲マンションもあり、飲食店も多数ある便利な地域といえる。片町文化センター圏域で分倍河原駅周辺や府中駅までが自転車で行動できる範囲になる。ピースプラザや介護予防センター、居宅支援事業所など施設サービス事業所があり便利な立地にある。自治会や老人会などの協力が比較的消極的な状況を打開すべく包括支援センターは活動を展開している。</p>

地域包括支援センター泉苑 ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①				
社会福祉士		○			○								
保健師・看護師						○							
介護支援専門員 (◎主任)	○	○		◎	○		○	○	○				
介護福祉士			○										
その他													

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・昨年度課題になっていたものについては、すべて積極的に取り組まれていて、改善されていたり、進展していたりしている。
- ・包括の体系的・計画的周知を実施したことにより、地域、居宅等からの相談が絶えずくるようになってきている。また、包括に関心のない地域は未だ存在するが、個別訪問や地域の祭りの手伝いを行う等、積極的に周知を図っている。
- ・相談・支援については、細かいことでも逐一その日の責任者に報告しており、ケース検討も週1回、緊急なものは当日に行う等、センター全体での情報共有がしっかり成されている。
- ・ケアマネジャーとの連携については、事業所に出向いて直接話す、土日のケース対応を代行する等、ケアマネジャーが相談しやすい環境作りに努めており、ケアマネジャーからの連絡・相談が増加している。
- ・すべてのケアマネジャーの状況を把握し、支援内容を見極めている。また、ケアマネジャー同士のネットワークを構築し、継続的に機能させている。
- ・相談者の立場に立ったきめ細かな対応と三職種が連携して医療的な面も包含した支援を心掛けている。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

- ・高齢者地域支援連絡会が包括からの一方向的な形になってしまっている。
- ・二次予防事業対象者リストの活用が未着手。
- ・認知症サポーター「ささえ隊」養成講座について、方向性をセンター全体で共有できていない。

◎総合コメント

職員は地域包括支援センターの設置目的を理解しており、より良き支援ができるよう一丸となって努力している姿が窺える。担当圏域の地域特性はよく掴めているが、地域住民のニーズの把握については十分ではないと自ら認識している。担当地区ケア会議等を通じて町ごとのニーズを把握・分析していくことを次年度の課題として進めていってほしい。認知症の普及については、認知症サポーター「ささえ隊」養成講座を戦略的に実施するとともに、サポーターの活用や自主活動の支援もお願いしたい。住民に対してもケアマネジャーに対しても親身な対応を心掛けることで信頼を勝ち得、連携に繋げていっていることは大変に評価できる点であり、その姿勢は是非、継続していってほしい。

地域包括支援センターよつや苑

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	四谷・住吉町・分梅町・美好町3丁目		
人口	34,691人	高齢者人口	6,474人
自治会数	28団体	老人クラブ数	13団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数（延べ件数）	6	5	0	1	0	6	2	1	1	2	1	1	1	1

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<p>美好町3丁目</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧甲州街道を挟んだ農家を中心に発展した北東部と、戦後企業により宅地化が進んだ南西部にそれぞれ自治会があり、老人会が派生している。分倍河原駅や国道20号、国立府中インターが近く交通の便がよいことや、東芝府中やNECが近く、社員寮や企業が押さえた土地に社員が移り住む等したことで昭和30年代から住む戸建てが多い。アパートやマンションも小規模だが多く建ち、高齢化率が14.5%（H24年10月現在）と低く若い人が多いのも特徴。3丁目内には歯科医や耳鼻科医はあるが総合病院や内科医はない。旧甲州街道沿いにスーパーはあるが、南西部には店舗や喫茶店等全くない。 <p>四谷</p> <ul style="list-style-type: none"> 京王線中河原駅に近く、1丁目には新旧の住宅街が多い。2丁目には昔ながらの農家も残っており、戸建ての借家やアパートもあり、昔ながらの地域の関係が残っている。3丁目は40年ほど前に金融機関や警察、企業が行なった宅地整備の分譲住宅が多く、地区の中でも高齢化率が27%と高齢化が進んでいる地域である。4丁目～6丁目にかけては昔からの農家や分譲住宅、市営住宅、新しい分譲住宅などが点在している。日野に抜ける道や中央高速への入り口も近いと、倉庫や資材置き場、工場等も多く地域としての繋がりを感じる事が難しい印象。新たに大型スーパーが開店したことで、戸建て住宅やマンションの建設も促進することが予想される。 <p>分梅町</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化率は全体で19.2%。都営住宅・市営住宅には高齢者も多いが、比較的労働世代やその子どもの数が多い。戸建て住宅には以前からの住民が多く、戸建て住宅とアパートでの高齢者数が多い印象。府中市介護予防推進センターがあり、近隣の高齢者は談話室などを有効活用し、繋がり場としている話をよく伺う。自治会では分梅地区での連合があり、青年会とも連携し神社でのお祭りや新年のもちつきなどのイベントを開催している。京王線分倍河原駅近隣には商業施設もあり、比較的活動的な地域。 <p>住吉町</p> <ul style="list-style-type: none"> 京王線中河原駅を中心にスーパーや商店等多く連なる中心部と、昔から田畑をもつ地主の家が並ぶ地域やその田畑をアパート・マンションとして再活用している地域、昭和30～40年代に入居した戸建てや、大型マンションが立ち並ぶ地域、昭和30年代に建てられた都営住宅群と街ごとの特色がはっきり分けられる。全体の高齢化率は18%後半。丁目別で見ると1・3・4丁目の新旧戸建てやアパートの建ち並ぶ街は13～16%台だが、昭和30年代からの戸建てが主の5丁目は18.4%、都営団地や新旧マンションが並んだ2丁目は21%を超えている。さらに都営団地だけを見ると60%を超える。各自治会とも内部で協力しながら地域を盛り上げている一方で、小さなアパートには他の地域から入居した単身高齢者が多く、住吉文化センターで集えている方もいれば孤立している方も多。医療は駅を中心に開業医が多く、恵仁会病院と連携をとり救急時にも迅速に対応している。

地域包括支援センターよつや苑 ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦					
社会福祉士	○	○						○					
保健師・看護師			○										
介護支援専門員 (◎主任)	○	○		◎	○	○	○	◎					
介護福祉士	○	○	○	○				○					
その他													

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・地域住民のニーズ及び課題を地域支援連絡会を通じ把握し、課題に対する取組も実行されている。
- ・相談支援の対応として、支援に入る前に包括内でカンファレンスを行い各担当と役割を明確にした上でアプローチしている。
- ・法人研修並びに自主研修を通じスキルアップが図れており、また、職員間で情報共有もされている。
- ・住民が気軽に集まり、交流できる場所として、市民から提供された住宅で月に1度集う会を開催し、住民主体の会に成長するよう働きかけている。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

- ・包括内では個別ケースの検討が出来ているが、介護支援専門員との支援体制が十分に構築されていない為、関係機関との連携強化を含め、統一した支援体制の構築が必要。
- ・介護予防講座に関する周知、新規受講者の増大が必要。

◎総合コメント

- ・職員は地域包括支援センターの役割を十分に把握している。定期的に研修会を開催することで、スキルアップや情報共有により3職種が協働して安定した支援体制が図れている。
- ・外部機関との連携強化により、多角的ニーズ把握や情報共有が期待できる。
- ・地域の特性やニーズ把握が連絡会やネットワークに積極的に参加する事により、地域の課題や特性を生かした取組が実施されており、今後も継続的な取組が期待できる。

地域包括支援センターあさひ苑

1. 地域基礎情報 (H24.10.1現在)

担当地区 (町名)	多磨町・若松町 (1丁目) ・紅葉丘・朝日町・白糸台 (1～3丁目)		
人口	30,738人	高齢者人口	5,281人
自治会数	23団体	老人クラブ数	11団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	3	5	0	0	0	4	0	1	0	1	1	0	1	1

2. 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

<p>朝日町、多磨町は戸建住宅が多く長年住んでいる方が多い。自治会は1町会でまとまっている。多磨町会では独自の高齢者見守りネットワークを構築しており、多磨町サロン (ひとり暮らし高齢者等地域支援事業) の実行委員として中心的役割を担っている。また、新たにできた高齢者住宅 (うらら多磨) の地域交流スペースの活用にも強い関心を持っており、今後の地域交流の協力が期待ができる。</p> <p>町内にスーパーや医療機関がないことで、買い物や通院は高齢になるほど不便な環境にある。</p> <p>紅葉丘は1～3丁目の自治会、都営アパート自治会がある。自治会で交流サロンを行っており地域の繋がりが強く、自治会、老人会、民生委員と横の繋がりが強固でお互いが声を掛けあい連携できる地域である。</p> <p>白糸台1～3丁目、若松町1丁目はアパート、マンションが多く高齢化率は低い。自治会も細かく分かれており活動も様々で横の繋がりは薄い。若い人が高齢者を呼びよせているケースも多く、アパート、マンションは隣近所の交流が少なく実態把握が難しいと自治会からの声も聞かれる。</p>
--

地域包括支援センターあさひ苑 ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤			①	②	③		
社会福祉士		○		○							○		
保健師・看護師	○								○	○			
介護支援専門員 (◎主任)	○	○	○		◎				○	○	○		
介護福祉士		○	○	○	○	○							
その他											精神保健 福祉士		

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・昨年度、課題になっていたものについては、全て積極的に取り組まれていて、改善されていたり、進展していたりしている。特に職員のスキルアップには、気に掛けて努めているように見受けられた。
- ・府中第二中学校の3年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施する計画が進んでいて、中学校の反応にもよるが、継続的な事業にしていきたい。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

認知症サポーター養成講座を中学校で今年度中に実施する予定であるが、具体的な実施方法についての学校側との協議が進んでいないと感じられた。
同講座の実施場所を今後全市的に広げていくためにも、是非今年度中の開催を実現してほしい。

◎総合コメント

担当地区の状況分析は的確にされており、地区の特性を生かした取組みも実施している。
地域包括支援センターとしての周知もできており、相談件数も多いが早めに対応して問題の解決を図っている。関係機関との連携も図れており、民生委員とは、地域支援連絡会、担当地域ケア会議等で情報交換している。地域支援連絡会への自治会参加率が80%を超えている点は、大変評価できる。ささえ隊ネット名簿等の活用も含め、地域でのボランティア力向上のための思案があるとのことで、次年度以降に活動が展開されることを期待する。

地域包括支援センター安立園

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	晴見町・幸町・天神町・府中町・寿町		
人口	27,204人	高齢者人口	5,316人
自治会数	72団体	老人クラブ数	10団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	13	12	1	3	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

府中市の中心に位置し、コンパクトな扇形にまとまった地域である。5つの町からなるが、府中駅近辺の商業地区や住宅街、大きな高層住宅が何棟も並ぶ地区、都営が多い地区、新しいマンションが立ち並ぶ地区など、それぞれ多様な特性を有する。見方を変えると古くからのお祭り繋がり等地縁が強い地区と、住みやすいと言われる府中を選びマンション等に転入してきた比較的関心が薄い地区に分けることも出来る。自治会は72箇所と多いが、虚弱な方をすべて把握し全戸住民の名簿まで作ってしまう程繋がり強い自治会がある一方、ゴミ当番の為だけに作られた殆ど機能していない自治会もあるなど、各自治会によって繋がりや活動内容に大きな開きがある。さらに、住みやすさ・便利さを指標としてみても町ごとに大きな違いがみられる。

つまり、地域特性を考える時、上記の様々な要因を多角的に捉える必要があり、一つの地域特性にとらわれることのないように、地区ごとの問題点を見ていくことの重要性を日々実感している。

地域包括支援センター安立園 ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥		①	②			
社会福祉士	○			○									
保健師・看護師						○							
介護支援専門員 (◎主任)	○	◎		○	○		◎		○				
介護福祉士	○	○		○	○		○		○				
その他		住環	社会福祉 社主事	住環			住環			住環			

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・地域支援連絡会への出席依頼の枠を広げ、自治会の出席率が上がった。
- ・成年後見制度へ繋げる流れについて、職員がきちんと把握しており必要な事例について権利擁護センターへ紹介を行っている。
- ・介護予防教室の受講者で、遠くから自転車に乗り参加するなどリピーターの方が増加している。また、そうした方々は、お互いに顔見知りで生涯グループのようになっており、介護予防コーディネーターとの関係性も深まっている。
- ・ささえ隊養成講座に関し、小学校に継続的に実施しており、PTAやその他にも積極的に講座開催を行っている。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

- ・近隣自治会との関係について、徐々に関わりができてきているものの、今後更に積極的に連携を持つことが必要と思われる。
- ・センター内で事例検討会を開催し、ケースの振り返り等、今後の支援に活かす活動を行う必要あり。
- ・介護予防講座の受講に関し、新規受講者の拡大が必要。
- ・虐待のケース対応について、個々のケースに関しそれぞれ対応がとれているが、基本を違わぬよう虐待対応マニュアルを活用すること。

◎総合コメント

地域とのネットワークという点で、自治会へのアプローチを広げ、地域支援連絡会への参加率も上がっている状況である。今年度の繋がりを次年度以降も発展させていく積極的な姿勢を持ち活動を行っている所は、大変評価できる。

安立園は、施設（法人）としての知名度が高い反面、包括の周知としては、まだ足りない部分もあるため、今後も地域や医療機関等の関係機関への積極的な周知が必要と思われる。

また、事例対応における3職種連携について、常に包括内で情報を共有し、それぞれの専門分野を活かした支援を行う体制が整っている。

今後、更なる職員のスキルアップのため、包括内での事例検討会や研修等の実施、受講した研修の共有等について体系的に実施し、活動に繋げていって欲しい。

地域包括支援センターしみずがおか

1. 地域基礎情報 (H24.10.1現在)

担当地区 (町名)	押立町、清水が丘、白糸台4～6丁目、八幡町		
人口	28,482人	高齢者人口	5,538人
自治会数	33団体	老人クラブ数	11団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	5	3	0	0	0	5	1	1	1	1	1	1	1	1

2. 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

押立町は、建売住宅やマンションなどが増えたが、従来からの自治会に未加入の方も多く、新旧住民の交流が希薄な面もある。また、交通の便が悪い関係もあり、文化センターなどの公共施設の活用だけでなく、より地域での交流の場の確保が必要と思われる。

清水が丘は、地域住民および自治会役員の高齢化が進んでいるが、世代交代なども含め、自治会活動の見直しが始まっている。1～3丁目自治会で合同の防災訓練を行うなど、地域の民生委員などが連携しながら、地域交流、見守り活動など、地道な活動が行われている。

白糸台については、古くからの自治会が地域の基盤となり、白糸台地区の活動を行っているが、比較的新しい自治会などについてはこれから活動をいかにすすめるか、など多くの課題をかかえている。また、車返団地をはじめとする集合住宅についても、高齢化を迎えそれぞれの管理組合や自治会がその対策について真剣に取り組むはじめている。先駆的に活動の進んでいる所と、何の取組もしていない所との格差もみえてきている。この地区については、自治会があさひ苑エリアと重なる地域もあり、今後も支援センター同志で連携した支援の取組が必要と思われる。

八幡町は、古くからお祭りでの繋がりが深く、自治会活動もその繋がりを基盤に動いているが、高齢者の見守りをはじめ、地域づくりについて、自治会での取組も進んできた。民生委員と自治会との繋がりが深く連携して取り組んでいる。

地域包括支援センターしみずがおか ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④			①	②			
社会福祉士		○		○				○				
保健師・看護師			○									
介護支援専門員 (◎主任)		◎	○	○	○			○	○			
介護福祉士				○	○							
その他	社会福祉主事											

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・「しみずがおか便り」を年4回刊行し、訪問にて配布している。介護支援専門員同士の情報交換会を開くなどして、地域包括支援センターの役割周知に努めている。
- ・市役所から斡旋された研修あるいは東京都社会福祉協議会が開催する研修に職員を参加させて、スキルアップを図ろうとする姿勢がみられる。
- ・3職種がしっかりと連携をとっている。適宜話し合える環境下であり、困難事例に対しても、それぞれの特性を活かし対応できている。
- ・緊急時の連絡体系がしっかりと構築されている。緊急時にはまずは委託先の業者が連絡を受け、職員と話したいと言った場合には、交代で職員が携帯電話を所持しており、その職員が基本的に対応する。対応が困難であると判断した場合にはセンター長へ連絡がいくことになっている。
- ・権利擁護業務については、社会福祉協議会と密接な関係にあることから「権利擁護センターふちゅう」と連携しながら適切に対応している。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

- ・緊急時の連絡をしている委託業者との情報のやり取りがFAXで行われており、個人情報漏洩の危険性がある。(現在対応中)
- ・自治会等の「何かやりたい」という希望に対し、具体的な活動に向けて継続的に支援が行われると更によい。
- ・ささえ隊名簿活用については活用の仕方が限定的となっており、もっと登録者に対する声かけや啓発ができるとよい。

◎総合コメント

地域包括支援センターが行う基本的業務及び3職種の連携や権利擁護業務、介護予防に対する取組などについては限られた職員数で地区担当制をとるなど工夫した運営をしている。自治会等地域の関係者への積極的な交流への介入を行うことによって、独自性が出せると地域包括支援センターとしての存在意義が市民に認知され、地域住民との信頼関係構築することができると考えられる。今後の取組について強化・充実していくことを具体的にし、実践できるとよい。

地域包括支援センターかたまち

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	片町・宮西町・宮町・本町・矢崎町・日吉町		
人口	20,876人	高齢者人口	3,578人
自治会数	46団体	老人クラブ数	14団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数（延べ件数）	6	10	1	2	0	2	1	0	1	0	0	1	2	1

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

商業施設とテナントビルが多く、他エリアと比較すると人口が少ない。高齢化率は低い
が、高齢者単身世帯数が高いのが特徴。

徒歩圏内にスーパーやコンビニ、クリニックや診療所、薬局があり、生活環境は整っている。

旧甲州街道を中心に、もともと地元に住んでいた住人同士の関わりが強い半面、転入してきた人たちの関係作りが進まないのが課題。

交通アクセスが良い市内中心部は、オートロックの高層マンションが多く、近隣の付き合いが希薄になっている。

一戸建てから便利なマンションを選んで越してきた方も多く、高齢者夫婦もしくはひとり暮らしで、家族以外の支援を持たず、地域との繋がりなどインフォーマルな資源を持っていない人が多い。

地域包括支援センターかたまち ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	①				
社会福祉士	○		○			○		○					
保健師・看護師				○									
介護支援専門員 (◎主任)	◎	○			○			○	○				
介護福祉士	○	○			○								
その他	精神保健 福祉士								歯科衛 生士				

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・昨年課題とされた苦情対応等については、積極的に取り組んでおりほぼ改善されている。特に、地域と協働して一人暮らし高齢者300人に対し、アンケートによる意向調査を実施し、来年度「ひとり暮らし高齢者事業」として展開する計画をたてるなど、地域のニーズに即した支援を地域住民と協働し企画運営している。また、長寿祝い対象者のうち77歳の全戸別訪問を行い、実態把握と共に包括の周知を展開するなど、包括支援センター機能の基本を忠実に実行している。
- ・ケアマネジャー支援については、担当地区ケア会議による支援困難事例の支援の他、ケアマネジャーへの情報提供や事業所訪問の実施により気軽に相談できる関係性の構築に努力している。更に、医療機関や民生委員との連携にも積極的に取り組み、支援体制の強化を図っている。
- ・個別ケースの支援では、訪問時は二人体制をとり、より確実に支援方法の見極めができるよう工夫をしている。
- ・介護予防事業については、年度初めに全老人会を対象に講座の周知の働きかけを行い、更に、二次予防参加者に対する勧奨などは、包括全体で積極的に取り組んでいる。
- ・月1回みなみ町包括と合同で研修会を企画し、職員の対人援助職としての力量を共に高め合っている。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

高齢者虐待については、事業を通し住民の理解が薄いことが把握されている。今後は、成年後見制度の周知と共に現状に即した効果的な働きかけが必要である。
 さまざまな情報を収集しているが、それをどのように分析し活用するか検討が必要である。(例えば、「見える化」による情報発信)

◎総合コメント

地域特性でもある高層マンション等集合住宅住民への働きかけが大きな課題と感じるなど、常に問題意識を持ちながら、質の高い包括支援センター業務に取り組もうとしている意気込みが感じられる。「地域とのつながりを考えよう」を合言葉に、毎月作成する広報誌を自治会や管理組合を通して回覧するなどの周知活動は、今後も継続実施して欲しい。また、地域住民との協働によるニーズの掘り起こしなど去年にはなかった新たな取組が展開されており、今後の成果を期待したい。

母体施設との関係を保ちながら、完全独立しているため、全職員が包括業務に専念出来ている。また、専従事務職を配置し、来訪者や電話等の問い合わせ対応や、介護予防マネジメント給付管理業務等を一手に行い、他の三職種担当者が包括業務に専念できる体制を構築するなどの工夫が見られている。今後もより効果的で質の高い包括支援センター業務を目指して欲しい。

地域包括支援センターしんまち

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	新町 栄町		
人口	15,113人	高齢者人口	3,813人
自治会数	78団体	老人クラブ数	8団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	2	3	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

新町、栄町ともに古くからの都営住宅・市営住宅等が建ち、市内でも高齢化率が高い地域である。（地域包括支援センターの対象地域としては、もっとも高齢化率が高い。）

高齢化率が高いこともあり、老人会や自治会では見守り活動が継続して行われていたり、支援活動を模索している状況もみられている。

府中市内でも北に位置し、東西に横長いエリアであり、横に向かう交通手段がなく、栄町から新町文化センターの利用は不便さがある。生活においてもスーパーを活用するか、バスに乗り府中駅または国分寺駅周辺にて買い物をする方も多い。

地域包括支援センターしんまち ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	
社会福祉士	○		○		○								
保健師・看護師				○					○	○			
介護支援専門員 (◎主任)	◎	○	○		◎	○			○		○	○	
介護福祉士	○					○	○				○	○	
その他		精神保健 福祉士			精神保健 福祉士								

◎改善された点 よく取り組んでいる点

平成23年度から担当している栄町エリアへは積極的に働きかけており、地域での認知度も上がっているとのこと。
また、地域内の店舗にも働きかけ、見守りネットワークを広げている。
看護職を一時的ではあるが3人配置して、相談等に対して医療面での意見が活かされている。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

既存の社会資源へ、現在の市民ニーズに合わせた改善の働きかけ。

◎総合コメント

市内での高齢化率1位(25.1%)で都営、市営団地の住人が多いという地域の特性を理解し、適切な支援をしている。
平成23年度から担当区域となった栄町エリアへのアプローチは今後とも継続して、何かあれば、包括へ相談する流れを定着させていく必要がある。
常勤職員、非常勤職員とも有資格者が多く、職員体制、担当職務の割り当ても適切である。
毎朝のミーティングや業務中の話し合いなどで、職員の意思統一、困難事例への対応の検討等を行っており、包括としてのまとまりがある。また、ケアマネジャーからの相談にも適切に対応し、十分なケアマネ支援ができています。
自治会、民生委員、老人クラブなどの地域住民へ包括の周知ができています。地域内に78ある自治会すべてに同じ対応は難しいと思われるが、今後、包括が地域住民の情報を収集し、適切なサービス・支援を行うために、既存の地域支援連絡会以外にも地域へ出向いての積極的なアプローチを望む。

地域包括支援センター緑苑

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	緑町・浅間町・若松町（2～5丁目）		
人口	22,969人	高齢者人口	3,643人
自治会数	32団体	老人クラブ数	6団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数（延べ件数）	1	3	1	0	0	3	1	1	1	0	1	1	2	2

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<ul style="list-style-type: none"> ・第1地区は高齢化率が15.9%と比較的若い地区である。緑町は高層ビルが最近多く建設され高齢者と同居するご家族が多くなっている。緑町は府中駅に近いが、町内に商店も少なく、買い物等には府中駅周辺まで出なければならない不便さはある。公園等は近いため、環境的には整っている。自治会、老人会の活動も活発に行われているが、新しい方の受け入れに多少の課題はある。 ・緑町3丁目についても、同様に高層ビルと一軒家が混在している地区だが自治会、老人会、小学校PTAの活動が活発で、協力しての地域見守り活動、有愛訪問等を行っている。 ・浅間町については浅間山を中心に人の輪が構成される。婦人会、老人会、自治会とが協力し合う関係で、自主防災組織や商工会の行事等が盛んに行われる地区。府中市の中心から離れている事もあることから、地域住民の意識が自立しているため、自らの課題を考えながら、前に進む姿勢を持って生活している。新しく建つ住宅への自治会加入や地域全体で個々の役割を見出している。 ・若松町地区は人見街道を中心に北と南に分かれる。昔からの人々とアパート、新築された一軒家が混在する。民生委員さん達も活発に活動しているが、地域としてのまとまりに欠ける。
--

地域包括支援センター緑苑 ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③		
社会福祉士					○	○							
保健師・看護師			○										
介護支援専門員 (◎主任)	○	◎		○	○	○	○						
介護福祉士	○	○		○	○		○						
その他						○							

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・今年度より担当地区となった若松町の自治会に積極的に関わり、3・4丁目を中心に徐々に関係性を築いている。
- ・関係性のある自治会組織に福祉部を配置してもらい、さらに連携がとりやすくなった。
- ・個別ケースの対応について看護職が医療的視点からかかわり、他職種との連携も取れている。また、看護職を通じて医療機関（医師）との連携も強くなっている。
- ・昨年度の課題であった権利擁護事業の周知については、成年後見制度の勉強会等を開催したり、地域支援連絡会でも周知するなど改善に努めている。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

- ・介護予防プログラムにおいて、対象者が少なく教室をギリギリの数でスタートさせているものもあるので、担当のみでなく包括をあげて取り組む必要がある。
- ・民生委員との連携において、一部関わりが難しい実情もある。民生委員の持っている情報を包括と共有し、個別ケースの支援に役立てるよう、今後、更なる連携が必要。

◎総合コメント

今年度サブセンターから地域包括支援センターとなり、職員も自分たちの業務を見直し、本所としての活動に取り組んでいる。また、業務チェックシートにおいても、活動の振り返りとして本シートを活用し、その結果では、全般的に昨年度よりも改善している点が伺える。

自治会・老人会・婦人会・民生委員等、地域の方々と積極的な関わりを持ち、早期に困難ケース等の相談が入る等、連携が充実してきている。

緑苑エリアは、市内でも比較的高齢化率が低く、今後、介護予防に関する取組の充実や、数年先の包括支援センターの対象となり得る若い世代とのかかわりについての活動を期待する。

地域包括支援センターにしふ

1. 地域基礎情報（H24.11.14現在）

担当地区（町名）	西府・本宿町・日新町		
人口	16,338人	高齢者人口	2,902人
自治会数	11団体	老人クラブ数	5団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数（延べ件数）	2	0	1	1	1	3	1	2	0	2	1	0	0	0

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<ul style="list-style-type: none"> ・西府町地区と本宿町地区は、南北に走る鎌倉街道と東西に走る甲州街道により、5地区・6地区と生活圈域が分けられている。西府町地区・日新町地区の西部は、国立市との市境となっている。どの地区も、かつては農業を営んでいた家が多く、大きな田畑が残っていたが、現在は、宅地や事業所用地に変わって来ており、日新町地区には、日本電気（NEC）の府中事業所がある。 ・住民の関係としては、大国魂神社の「くらやみ祭り」や熊野神社の例大祭を軸とした地縁のつながりが強い。また、三つの地区は西府文化センター圏域のコミュニティ協議会に属し、文化センター祭りや各種催し物を実施している。 ・平成22年3月に、JR南武線の「西府駅」が開設した。現在も、駅の北口周辺は開発途中の段階であり、マンションの建設が始まっている。駅のロータリーを経由するバスの乗り入れ本数が少なく、高齢者の移動手段に難点がある。また、駅周辺に食料品を購入できるスーパーがないため、コンビニで購入したり、宅配業者に食材を配達してもらっている。 ・担当エリア内の老人会クラブは5つで、約450名の高齢者が入会し、活動を行っている。 ・数年の間に地区内に、認知症対応グループホーム（2か所）、地域密着型サービス事業所（1ヶ所）、精神障害者地域ケアセンター（1ヶ所）、高齢者専用住宅（1ヶ所）が、事業を開始している。 ・包括にしふ担当エリアの高齢化率は、17.8%である。

地域包括支援センターにしふ ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤			①				
社会福祉士	○	○		○									
保健師・看護師			○										
介護支援専門員 (◎主任)	◎	○	○	○	○				○				
介護福祉士	○			○	○				○				
その他						ヘルパー 2級							

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・地域包括支援センターの周知活動として回覧板・自治会の掲示板等の活用が効果的に行われており、職員の名刺にQRコードを印字するなど工夫されている。
- ・地域包括支援センターにおける看護職の位置づけや活用について、23年度の課題を踏まえて、積極的に取り組んでいる姿勢が認められる。
- ・消費者被害の事例を把握した際には、対策等を示したチラシの配布を地域に依頼し、老人会の集まり等でも注意を喚起する等の対応をしている。
- ・中学生の職場体験（年4回）や老人会等でささえ隊の内容の要約、見守りネットワークの趣旨等について講座を実施しており、高齢者を支える内容を周知している。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

- ・地域包括支援センターの職員数が平成23年度より1名減となっており、地域包括支援センターの委託業務を遂行していくためには、厳しい状況にある。
- ・3職種が有機的に連携した対応について、24年度は地域包括支援センター内で共通理解や役割分担ができてきているが、今後さらに3職種の連携を望む。
- ・地域包括支援センター内での事例検討会を適宜実施しているが、職員のスキルアップを図るため、定期的な開催と検討会のあり方についての検討を望む。
- ・認知症サポーター養成講座の受講促進を始め認知症支援ネットワークの構築については、具体的な計画で取り組む必要がある。

◎総合コメント

平成23年度から担当している日新町への各種周知活動や事業展開、自治会等との関わりも深まっており、担当地域包括支援センターとしての認知もされてきている。地域包括支援センターの周知活動は、各種媒体を活用して積極的に行っており、その効果も認められる。地域包括支援センターの基本業務については、全体的にはスキルアップしていると評価できるが、3職種の有機的な連携やより適切な事例対応等課題もあると思われる。

地域包括支援センターこれまさ

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	是政、小柳		
人口	21,966人	高齢者人口	4,078人
自治会数	22団体	老人クラブ数	10団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数（延べ件数）	2	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

小柳町は戸建住宅が多く、概ね約40年前の分譲である。30～40歳代に転居してきた住民が高齢期に入り介護問題に遭遇し始めている。総じて自治会や老人会等の活動も活発で介護予防への意識も高く、地域全体でのイベントや町内会のお祭り等も毎年開催、地域交流も盛んである。一方、多摩川競艇場周辺の古いアパートには独居あるいは生活保護者が居住し、支援への依頼も多い。町内には市営住宅が1か所3棟ある。しかし、集会室がないため棟ごとのまとまりに欠け自治会加入も統一されていない。居住者からの個別相談はあるものの、全体的な介入が進まず課題となっている。

是政は古くからの居住者が多く地元意識が根強く残っている。俗に明治時代から住んでいないと住民としては認めないと言われ50年では新参者扱いである。町会や老人会役員の大半は地元の有力者が占めているため、新しい情報やサービスが入りにくい。しかし、時代の流れにより高層の大型マンションが増え、新住民の流入も多い。殆どがオートロックマンションのため高齢の住民の実態把握に支障があり、サービスの導入が難しい。新旧住民の交流する場がなく現在は二極化を呈している。

小柳町の高齢化は高くなる傾向だが、是政では若い層の新住民が増えているため高齢化は横ばいである。両町合わせて大型スーパーは1軒、入院可能な病院も1か所で生活の利便性はよくない。元気な住民はちゅうバスで府中まで買い物や通院に出かけている。

地域包括支援センターこれまさ ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦					
社会福祉士				○									
保健師・看護師					○								
介護支援専門員 (◎主任)	○	○	◎	○		○	○						
介護福祉士	○	○		○		○	○	○					
その他	○		○	○									

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・地域包括支援センターの周知活動について、今年度は医療機関、薬局、スーパー等へ2人ペアで計画的に周知を行い、また、相談員の訪問を無駄なく活用して、関わりが持ちにくかった市営住宅等に効果的な周知活動を行っている。
- ・自治会、町内会等の役員会への出席や自治会の夜間防犯パトロールへの協力などにより、新たな地域資源との接点を作る努力をしている。
- ・地域権利擁護事業及び成年後見制度を円滑に利用調整し、効果的に活用している。
- ・ひとり暮らし高齢者等地域支援事業における地域の居場所づくりにおいては、前年度から計画的に地域住民を主体とした実行委員会組織の立上げをサポートしており、地域で活用が不十分だった自治会公会堂にコミュニティカフェを立上げ、月1回気軽に参加できる資源となりつつある。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

- ・地域包括支援センターの周知や地域との関係性を深めるための取り組みとして、夜間等時間外の会合への出席や、イベントへの参加協力は効果があるものの、多少負担となっているように見受けられる。きっかけづくりとして大事な取組であるため、今後、職員負担のバランスを考慮するとともに、地域住民との顔の見える関係性を継続しつつ、一定の距離感を保ちながら取り組んでいただきたい。
- ・認知症サポーター「ささえ隊」ネット名簿登録者の具体的な活動については、新たな活動を求めることのみならず、既存の地域資源が行なう活動への参加も視野に入れたコーディネートが必要である。

◎総合コメント

地域包括支援センターの周知活動については、問題多発エリアに対し、職員全員体制で創意工夫と努力により計画的に取組が行われている。高齢者に対する相談支援のスタンスとして、高齢者が元気なうちから介護予防や自主グループ活動、近隣との関係を築くことなどの自助努力により、早期発見、早期対応に繋がるということを基本に据えている。その観点から、地域資源との関わり、介護予防推進事業や地域づくりに重点を置いた取組をしており、要援護高齢者情報の早期把握により円滑な相談支援に繋げる体制づくりに期待が持てる。また、看護職の活用については、相談支援の個別対応において、相談初期から医療ニーズの高いケースへ円滑に関わり、その他職員との連携が充分図れている。さらに、介護予防事業にも医療的知識を活用する等活躍の場が多く、専門性が多い場面で発揮できている。認知症サポーター養成講座は、計画的に進められており、特にPTAを介して中学校での開催ができたことは、新たな連携による支援体制の一助となることが期待される。

社会資源との関係作りが地域包括支援センターの様々な活動に活かされている。

地域包括支援センターみなみ町

1. 地域基礎情報（H24.10.1現在）

担当地区（町名）	南町		
人口	8,880人	高齢者人口	2,136人
自治会数	9団体	老人クラブ数	5団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数（延べ件数）	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

全人口は8,880人、高齢者人口は2,136人。高齢化率24%。町内に医療機関は2件、地域の高齢者が多く通っている一般内科、小児科が1つある。介護保険サービス事業所は訪問介護、居宅支援事業所、通所サービスがある。大通りにはバスが通っているが、地域内部までは公共での機関が無い為、バス通りまで徒歩で移動して府中駅や中河原駅まで買物や通院に行く方が多い。昔からの一般住宅、公営集合住宅では高齢化が進んでいる。以前まで空き地や畑だった所に新しい住宅が建ち始め小さな子どもがいる若い世代も住み始めるようになってきている。

自治会数は9団体、通り一本をまとめた小さな自治会から、大人数を抱える大きな自治会まである。各自治会の特徴としては、西部自治会は1,000世帯を超える大きな自治会である為、班を作り活動している。定期的に班で話し合いを行い、行事等は集合で企画、開催している。中島通り自治会は、元々西部自治会に入っていたが、マンションが建ち世帯数が増えたことから独立した自治会として活動するようになった。一本の通りをまとめる小さな自治会の為、人数は少ないが、地域同士の見守りを推進する為、昨年9月から、週末を除く雨の日以外は公園でのラジオ体操を行っている。高齢者中心で活動しているが、地域での世代を越えた交流を意識していて、餅つきやその他の行事の時には子どもや若い世代の両親なども参加している。その他の自治会も地域防災訓練や祭等を通して地域住民同士の交流は多少ある。

地域包括支援センターみなみ町 ヒアリング報告書

◎職員の状況

(平成24年12月現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	所長	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦					
社会福祉士		○	○		○	○	○						
保健師・看護師				○									
介護支援専門員 (◎主任)	○	○	◎										
介護福祉士	○		○					○	○				
その他													

◎改善された点 よく取り組んでいる点

- ・地域の住民に対し、地域支援連絡会の開催やイベント・自治会の会合への積極的な参加を通して、地域包括支援センターの周知ができています。
- ・包括内で相談を受けたケースについて、相談の内容や状況に応じて3職種を入れ話し合い担当職員を配置している。また、ケースの内容について、毎日情報共有の場を設け担当職員以外でも対応できるようにしている。
- ・地域包括支援センターかたまちとの合同研修会を通して、相談員のスキルアップを図っている。
- ・地域支援連絡会を積極的に実施しており、高齢者の問題について、関係機関で協議している。
- ・3職種それぞれが専門性を活かした業務を行うことができています。

◎改善が必要な点 取組が必要な点

自治会加入者や戸建て住宅の住民に対しては、ネットワークの構築ができていると思われるが、マンション住民や自治会未加入者については、関わりが持っていないところがあるため、取組の工夫が必要である。
地域支援連絡会等で協議した高齢者の問題についての課題分析や、地域の特性に合わせた地域住民が主体となる地域づくりについて、今後、取組が必要と思われる。

◎総合コメント

自治会への包括としての加入や、各地域でのイベントや会合に積極的に参加する等、地域ネットワークの構築のための周知活動や地域情報の収集、地域特性の把握ができており、今後も継続して欲しい。
しかしながら、把握した地域の状況に対する課題の分析や、地域の特性を踏まえた地域主体の活動の支援について思考している段階であると思われ、今後、地域の力を引き出す支援ができることを期待している。
また、支援困難ケースの対応について、包括支援センター職員間での情報共有や職員配置等、連携がよく図れており、今後も継続して欲しい。